

■堀尾吉晴 武将・大名。秀吉に臣従、緒戦に功あって次々加増、幹部となり、家康にも認められ、実質的な初代松江藩主に。

ほりおよしはる

鉄砲伝来・・・1543＝ 尾張国丹羽郡御供所村で、土豪堀尾泰晴(吉久、泰時)の長男に生まれる。幼名仁王丸。父は、山内盛豊(山内一豊の父)とともに、尾張上四郡の守護代岩倉織田氏の信安に仕えて重職にあった。

ザビエル来日1549＝6歳：

大友布教許可1552＝9歳：当時、岩倉織田氏は傍流である織田弾正忠家の織田信長に圧迫されており、  
・・・1558＝15歳：名を小太郎に改める。初陣になった岩倉城の戦いで一番首を取る功名を立てたものの、  
大友府内開港1559＝16歳：敗北し、岩倉織田氏が滅亡したため、父と共に浪人となった。名を茂助に改め、諸国を流浪、

川中島最激戦1561＝18歳：

純忠長崎開港1562＝19歳：美濃国に住み、猟師として生計を立てるうち、  
川中島の戦終1564＝21歳：稲葉山城裏山で、信長の家臣の木下藤吉郎と会い臣従、  
・・・1566＝23歳：\*藤吉郎の墨俣寄騎衆になる。以降は秀吉に従って各地を転戦し、

岐阜楽市楽座1567＝24歳：稲葉山城攻めでは、裏道の道案内役を務めて織田軍を勝利に導き、岐阜城と改称される。

織田信長入京1568＝25歳：六角氏の近江箕作城攻め、

石山合戦始・1570＝27歳：藤吉郎の進進を岐阜の信長に伝え、帰途遭遇した浅井方の兵の首を取り、信長から讃えられる。隊長として野洲一揆を攻め、騎馬隊を率いて箕浦一揆を攻めた後、藤吉郎の馬廻り衆となって浅井勢と戦い、

三方原の戦・1572＝29歳：木下藤吉郎が羽柴秀吉と改名、

室町幕府滅亡1573＝30歳：羽柴勢手柄への賞の一環として、近江国長浜の内に100石を与えられた。

長島一揆鎮圧1574＝31歳：長浜築城中の秀吉が鷹狩りに出、帰途観音寺に立ち寄って抹茶を希望した際、福島正則とともに御伴、その時の小僧のちに石田三成になる。

長篠の戦・・・1575＝32歳：嫡男忠氏が誕生。長篠の戦で首級を挙げて信長から賞され、300石加増、

安土城築城・1576＝33歳：安土築城では人足係として石垣普請を指揮、羽柴勢の一揆攻めでは敵を追い塚を奪取。

安土楽市楽座1577＝34歳：石山攻め、但馬攻め、信貴山攻めなど、いずれも優れた働きで、秀吉から賞され、450石加増、

上杉謙信没・1578＝35歳：さらに、650石加増されて、播磨国姫路1,500石。筑前三木の付城平井山中での観月の茶会に参加、

安土教会許可1579＝36歳：三木勢と戦い、丹波攻めにも参加し、秀吉から分銅紋の旗、番麾(合図旗)、甲賀衆百人を預かる。

石山合戦終・1580＝37歳：三木城が落城し、丹波国黒井3,000石を拝領。

バリニャノ謁見 1581＝38歳：因幡攻めに参加し、鳥取城落城に際しては、検使役、城請取締、3,500石になる。

本能寺の変・1582＝39歳：秀吉に従い安土に参上して信長に拝謁、備中高松城攻めでは先隊となり、水攻めの築堤、切腹した敵将清水宗治の検死役を務める。信長を討った明智光秀との山崎の戦いでは、堀秀政や中村一氏とともに先手の鉄砲頭として参加、天王山争奪の際に敵將を討ち取り、丹波国氷上郡内(黒井城)で6,284石となる。

賤ヶ岳の戦・1583＝40歳：長浜城の軍議では14将中9位に着座。秀吉が出陣後も、大垣城に残り、氏家直通を説得して、一緒に秀吉のあとを追いついて賤ヶ岳に出陣、秀吉本陣の背後の安全を請け負い、直通を賤ヶ岳出陣に踏み切らせた。若狭の小浜城1万石を経て、高浜城1万7,000石が与えられ、名を茂助から吉晴に改める。

長久手の戦・1584＝41歳：大坂城山里の茶室開きに参加。秀吉が安土城で織田信雄と会見する際、警護の鉄砲隊長。その後の戦で、2度も殿役となり、柏井一揆の首領堀尾修理と同族争い、加賀之井城を攻落した際にも、城兵の中に同族の堀尾新八郎がいた。秀吉の人質になった、家康の子秀康を、浅野長政とともに、浜松に迎えに行く。

豊臣秀吉関白1585＝42歳：佐々成政征伐に従軍。山内一豊らとともに豊臣秀次付の宿老に任命される。所領も若狭国佐垣2万石に移封され、秀吉の関白叙任の禁中拝賀では、警備の長に任じられ、従五位下帯刀長に叙任、佐垣では、実際の所務(徴税権)などは無かったが、秀吉の信任厚く、わずかに60日後に、近江国の要衝佐和山に4万石を与えられて移封された。戦友・親友・先輩であった蜂須賀小六の快気祝いの茶会に出席するも、

秀吉太政大臣1586＝43歳：京都内野新邸縄張りや東山大仏殿縄打ちの与力、旭姫の家康嫁入りに人夫徴発。死去、千利休から手紙、バレン追放令 1587＝44歳：この頃、金助を養子に。九州征伐にも従軍、攻め落とした肥後南之関城に入城、

刀狩海賊取締1588＝45歳：秀吉に降った佐々成政の牢人百余人を抱え、方広寺大仏殿の材木運送を指揮、倅金助が奉行に拝謁。

・・・1589＝46歳：山内一豊とともに、千利休から茶会に招かれ、秀吉からも書状。

秀吉全国統一1590＝47歳：小田原征伐にも従軍。秀次の下で山中城攻めに参加。この役の途中で、ともに出陣した嫡子金助が病死。小田原開城後は、戦功を賞され、関東に移封された徳川家康の旧領である遠江国浜松城主12万石に封じられ、豊臣姓も許された。千利休からも祝され、茶会に招かれる。

土農工商公布1591＝48歳：稲葉山以来24年間行動を共にしてきた羽柴秀長(秀吉の弟)が死去。切腹直前の千利休から別離の茶の湯に招かれる。奥州征伐では軍目付。九戸政実の乱では軍議を欠席して先陣、多数を打ち首にして勝利に貢献、秀吉から感状。大仏殿の工事が中断になり、名護屋城普請を始め、

方広寺大仏殿1593＝50歳：文禄の役では国内待機し後方支援に当たり、伏見奉行に任じられる。明の万曆帝が秀吉を"日本国王"に任命する詔命を送付したものの、激怒した秀吉から下げ渡され、その国書の見事さにそのまま持ち帰って家宝とし、後に娘が嫁いだ石川家に伝わり、曲折を経て、大阪歴史博物館に保管されている。従って、時代劇などで激怒した秀吉が国書を破り捨てるシーンは後世の創作によるもので史実ではない。

前年秀吉に、お拾が誕生して、秀次との対立が始まる。伏見城が竣工し、秀吉はここに移る。

関白秀次事件1595＝52歳：秀次討滅に当たり、万が一の刺客にされるも、秀次は自ら切腹。

慶長の役・・・1597＝54歳：家康らの諫言も退け、秀吉が再び朝鮮へ侵攻軍派遣、

豊臣秀吉没・1598＝55歳："五大老""五奉行"が定められた際、中村一氏、生駒親正とともに、"三中老"に任命されたというのが、現代では、"三中老"は後世に創られ実在しなかったとされる。秀吉が死去して、再征軍は召喚、奉行による徳川家康襲撃を中止させ、石田三成や前田利家ら反家康派との調整・周旋を務めた。

前田利家没・1599＝56歳：父康晴が浜松で死去。家康に謁見、武功派福島正則にも会い、

関ヶ原の戦・1600＝57歳：\*家康の重臣井伊直政から、周旋に対する感謝状が贈られている。関ヶ原の戦いでは東軍に与し、老齢を理由に、家督を次男の忠氏に譲って隠居、その際、家康から越前府中に5万石を隠居料として与えられ、家康から知行を与えられた初例になった。家康が会津征伐に赴く際に従軍を求めると、忠氏のみでよいとして、越前への帰国を命じら、その途上、三河国池鯉鮒での宴会中、美濃加賀野井城主加賀井重豪が、口論の末に、三河刈谷城主水野忠重を殺害、自らも襲いかかれたが、1大傷を負いながらも、これを返り討ちにした。事件の際、殺害現場を見た忠重の家臣に、殺害の主犯と勘違いされたという逸話も伝わる。また、菩提寺である京都市春光院に残る吉晴木像には、左頬に深い傷跡が彫りこまれているが、それはこの際の傷ではないかと推測されている。この事件のため、本戦には参加できず、越前に帰国、密かに近江・北国の情勢を家康に報せていたとも言われる。代わって出陣した忠氏が戦功を挙げて賞され、出雲国24万石に加増移封され、従四位下、安来の富田城に入る。以後、後の松江藩にあって、

東本願寺創建1602＝59歳：前年に六女と結婚した石川忠総が来城、

阿国歌舞伎始1603＝60歳：忠氏とともに上洛し、千姫と結婚した豊臣秀頼を祝い、豊臣姓を下賜される。

糸割符法始・1604＝61歳：隣国伯耆国米子の中村家における御家騒動(横田騒動、または米子騒動)においては、中村一忠の応援要請を受け、応援出兵して騒動を鎮圧している。忠氏、次いで六女も夭折。家督は孫の忠晴が継ぎ、ともに上洛して將軍に謁見するが、幼年のためその後見役を務め、

江戸城完成・1606＝63歳：江戸城修築に石船を出す。

家康駿府退隠1607＝64歳：松江城築城に着工するとともに、末次、白潟と合わせて、松江と公称、

・・・1608＝65歳：本拠を移して、周辺の橋等整備を進め、

島津琉球支配1609＝66歳：天守閣建造に着工、

琉球使始・・・1610＝67歳：忠晴を宇都宮城主奥平家昌と家康の長女亀姫の娘と結婚させ、

山田長政渡航1611＝68歳：全城郭完成まもなく、没した。実際には藩主にならなかったが、忠氏時代には忠氏と二元政治、忠晴時代には若年の忠晴に代わって政務をしたことから、松江藩の初代藩主として見なされることが多い。1633年に忠晴が死去。嗣が無く改易となった。

東本願寺創建1602＝59歳：前年に六女と結婚した石川忠総が来城、

阿国歌舞伎始1603＝60歳：忠氏とともに上洛し、千姫と結婚した豊臣秀頼を祝い、豊臣姓を下賜される。

糸割符法始・1604＝61歳：隣国伯耆国米子の中村家における御家騒動(横田騒動、または米子騒動)においては、中村一忠の応援要請を受け、応援出兵して騒動を鎮圧している。忠氏、次いで六女も夭折。家督は孫の忠晴が継ぎ、ともに上洛して將軍に謁見するが、幼年のためその後見役を務め、

江戸城完成・1606＝63歳：江戸城修築に石船を出す。

家康駿府退隠1607＝64歳：松江城築城に着工するとともに、末次、白潟と合わせて、松江と公称、

・・・1608＝65歳：本拠を移して、周辺の橋等整備を進め、

島津琉球支配1609＝66歳：天守閣建造に着工、

琉球使始・・・1610＝67歳：忠晴を宇都宮城主奥平家昌と家康の長女亀姫の娘と結婚させ、

山田長政渡航1611＝68歳：全城郭完成まもなく、没した。実際には藩主にならなかったが、忠氏時代には忠氏と二元政治、忠晴時代には若年の忠晴に代わって政務をしたことから、松江藩の初代藩主として見なされることが多い。1633年に忠晴が死去。嗣が無く改易となった。